

# SPに対してどのような属性が送出されるか確認する方法

attribute-resolver.xmlやattribute-filter.xml等の設定を行ったあと、SPに対してどのような属性が送出されるか確認するためにはShibboleth IdP付属のaacli.shコマンドを利用することができます。

利用方法、及び出力結果の例は以下の通りです。

```
$ /opt/shibboleth-idp/bin/aacli.sh --principal="ユーザ名" --requester="属性送出を確認したいSPのentityID"

{
  "requester": "SPのentityID",
  "principal": "ユーザ名",
  "attributes": [

    {
      "name": "eduPersonEntitlement",
      "values": [
        "StringValue{value=XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX}"      ]
    },

    {
      "name": "eduPersonTargetedID",
      "values": [
        "XMLObjectAttributeValue{value=org.opensaml.saml.saml2.core.impl.NameIDImpl@b8728d3}"      ]
    },

    {
      "name": "displayName",
      "values": [
        "StringValue{value=XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX}"      ]
    },

    {
      "name": "eduPersonPrincipalName",
      "values": [
        "ScopedStringValue{value=ユーザ名, scope=***.ac.jp}"      ]
    }

  ]
}
```

aacli.shコマンドの詳細は --help または -h オプションで確認するか、<https://wiki.shibboleth.net/confluence/display/IDP4/AACLI> をご参照ください。

カスタマイズしたNameIDが送信されることを確認するためには、オプション --saml2 もしくは --saml1 を付けて実行してください。JSON形式でなくNameIDを含めた実際のアサーションのXML形式で出力されるようになります。

同様に、EncoderをカスタマイズしてSAML 2.0でのみ、もしくはSAML 1.1のみで属性が送信されることを確認したい場合も、上記オプションをお使いください。